おんがく広場
Facebook,Twitterにも掲載／リンクフリー／御自由にコピーして下さい　令和2年(2020)4月10日創刊
♪Music Square♪
第270号
令和6年(2024) 7月17日(水)
発行・クッキー会　発行責任者・加藤良一
連絡先　rkato@max.hi-ho.ne.jp

第9回全日本男声合唱フェスティバルin松本

個人参加　フルトン男声合唱団　**荒川　滋**

「体調に不安があったのでどこまで我慢できるのか。試しに少しばかり歩いてみよう。もしかすると、これが最後のぶら～り歩きになるかも・・」と思いながら、7月13日(土)-14日(日)の2日 間 、長野県松本市の文化会館(キッセイ文化ホール)で開催された「**全日本男声合唱フェスティバルin松本**」に個人参加してきました。

前回はコロナ禍のため開催寸前で中止になり、今回が6年ぶりの開催です。この催しは、第1回が14年前の2010年に宮崎市の県立芸術劇場・アイザックスターンホールで開催され、北海道から九州まで15団体が参加。地元宮崎で、フルトン男声合唱団は指揮**甲斐勝利**さん、ピアノ**米倉美穂**さんのもと、「思い出のスカイライン」など3曲を歌い、合同演奏では**荒谷俊治**先生の講座で、シャルル・グノーの「第二ミサ」を歌った、文字通り思い出のステージとなっています。

今回は、「信州の宝」とまで言われ、2月6日にお亡くなりになった巨匠「世界のオザワ」こと**小澤征爾**先生と由緒ある松本市での開催に、深い思いを抱いて参加しました。松本市では、小澤先生が総監督を務める音楽の祭典「セイジ・オザワ松本フェスティバル」が毎年開かれてきました。今回の男声合唱フェスティバルには28団体が集い、大いに賑わいました。仕事上では、かつて何度か訪れましたが、私が合唱で長野県に行くのは、11年前に岡谷市で開催された「**JAMCA信州**」に個人参加して以来です。今回の合同合唱曲講座は3コース、●**伊東恵司**教室：多田武彦「**わがふるき日のうた**」参加団体12(228名)、個人参加(24名)、●**広瀬康夫**教室：「**バーバーショップ**」参加団体11(199名)、個人参加(8名)、●**山脇卓也**教室：木下牧子「**駱駝の瘤にまたがって**」参加団体4(133名)、個人参加(11名)でした。

私は、伊東恵司先生の指揮で三好達治作詩「わがふるき日のうた」を選びました。私と多田武彦先生とのお付き合いは、2005年埼玉県大宮市での「**多田武彦合唱講習会**」(男声合唱プロジェクトYARO会主催)でお目にかかり、お世話になったのがきっかけです。その際、私ごときに声をかけていただき、在りし日の先生とのツーショットを見るにつけても、まるでその時のことが昨日のことのように懐かしく思い出されます。私にとって多田先生は、「もう一度お会いしたいと思う方」のお一人です。あの時、わがフルトン男声合唱団の甲斐指揮者には前もって告げずに会いに行きましたので、さぞかしビックリされたことと思います。

タダタケさんの「わがふる」を歌いたいという強い思いで個人参加した今回、1日目に伊東先生による3時間を超える熱心なご指導を得て、「わがふる」の境地に浸りました。昨年暮れに楽譜を購入した際、この曲は初見でしたが、その後約半年間、 自学自習を重ねた結果、おかげさまで当日はどうにか暗譜で歌うことが出来ました。フェスティバルの締めくくりとして、参加者全員で「いざ起て戦人よ」と「遥かな友に」を歌い終演。全国から参加された多くの皆さんと一緒にオンステでき、音楽都市松本での有意義な4日間に感謝しています。

(左)加藤良一氏、(右)筆者

口数のすくない寡黙奴の身は、特にコロナ禍以降、人と語らうことが億劫になりました。体調不良、在庫豊富の病を抱え、気力も体力も失せたこの84歳の老いぼれの私は、フレイルを実感しながら、「残りすくない人生、合唱を大いに楽しみたい」と思っています。なお、今回参加するに際し「わがふるき日のうた」の詩情や曲想等について、この『おんがく広場』を編集されている**加藤良一**さんにご教示をいただき大変助かりました。お礼を申し上げます。